

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX : 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻 頭 言

産業保健支援の多様性 ― 現場とエビデンスを結ぶ ―

浜松医科大学名誉教授・藤田医科大学客員教授 異 あさみ



新年あけましておめでとうございます。

皆さまとともに新しい一年を迎えられることを嬉しく思います。

私は産業保健師としての実践に加え、大学での研究・教育を通じて、約半世紀にわたり産業

保健の仕事に携わってきました。近年は労働衛生コンサルタントとして、中小規模事業場の支援にも力を注いでいます。現場で求められることは、メンタルヘルス不調者の職場復帰支援、ワークエンゲイジメントの向上、若手の育成や離職防止など実に幅広いものです。こうした課題に応えるために、経営者や従業員へのヒアリング、積極的傾聴を取り入れたコミュニケーション支援、ストレスチェック集団分析を活かした職場環境改善などに取り組んでいます。また、メンタルヘルスや睡眠保健指導に関する研究成果を、講演や地域・職域での連携を通じて現場に届けることも大切にしています。

ヒアリングをすると、若手からは「多忙な上司に相談できず、成長の実感が得られない」、管理職からは「新しい育成方法を求められるが、ハラスメントを恐れて指導が難しい」といった声が寄せられます。社会の変化や世代間の違いが、現場でのストレスにつながっていることが見えてきます。さらに、産業保健活動の取り組み方には事業場ごとに大きな差があり、法令を守ることにとどまる職場もあれば、限られた資源を工夫して成果を上げている職場もあります。こうした経験から、一律の支援では十分な効果が得られず、その場の実情に合わせた柔軟な対応こそが働く人と組織に変化をも

たらす鍵になると感じております。

現場の声は課題を絞り込み、支援をより実効的なものにしてくれます。一方で、学会や研究から得られる理論やエビデンスは、その支援に妥当性や説得力を加えてくれます。研究成果を現場で活かし、現場での経験を研究に還元する。この循環を大切にしていくことが、産業保健をしっかりと現場に根付かせる道だと思っています。

産業保健看護職については、2015 年に産業保健看護専門職制度が設立され、キャリアを積む上で学会発表が必須とされたことで、実践活動とともに研究や教育の面も含めて質の向上が進みました。さらに 2023 年には、初学者からベテランまで幅広く活用できる『必修 産業保健看護学』が刊行されました。こうした資源を活かしながら、エビデンスに基づいた現場のニーズに合った支援を、これからも続けていくことが大切だと考えています。

今後も日本産業衛生学会東海地方会の発展に尽力し、皆様のご指導・ご支援を賜りたく存じます。



開 催 報 告

東海地方会産業医部会懇話会に参加して

名古屋鉄道株式会社 人事部 健康推進センター 産業医 仁 瓶 宗 樹



2025 年 4 月 19 日(土)、ウイंकあいちにて、オンライン配信併用で開催されました「東海地方会産業医部会懇話会」に参加しましたので報告いたします。

第 1 部 特別講演では、内田 満夫先生（群馬大学数理データ科学教育研究センター 教授）より、「産業保健と AI～総論から実践まで～」と題してご講演をいただきました。AI の基礎知識から最新動向、そして産業保健現場への応用までが網羅された、非常に示唆に富む内容でした。まず、近年の AI 技術の急速な発展、特に ChatGPT に代表される生成 AI の登場が、社会の様々な領域で変革をもたらしている現状が紹介されました。その一方で、産業保健分野においては具体的な活用事例の報告はまだ少ないという課題も指摘されました。次に、AI の歴史と現状について概説されました。現在は生成 AI が大きな注目を集める第 4 次 AI ブームの真っただ中で、特に ChatGPT の登場は、AI が社会構造そのものを変える可能性を持っており、産業保健分野においてもその影響を注視していく必要性が強調されました。AI の仕組みについて、機械学習、深層学習（DL）、画像認識の CNN や自然言語処理の Transformer といった具体的なモデルについても解説がありました。産業保健分野における活用事例として、健診結果を AI で分析し将来の疾病リスクを予測して効果的な予防策を講じることや、作業者の姿勢を AI で評価して労災につながる不適切な動作の特定・改善指導に

繋げることなどが紹介され、産業保健活動における AI の積極的導入を検討する必要性が示されました。最後に、マルチモーダル AI、量子 AI などさらなる発展が期待される一方で、倫理的な問題への対応、法規制の整備、AI 人材の育成、そして AI による仕事の代替可能性といった、社会システム全体で議論すべき重要な課題も提起されました。

第 2 部の会員活動報告では、産業保健の第一線で活躍される先生方の実践的なご経験に触れることができました。新井 孝典先生（株式会社 なごや産業医事務所）からは、「産業医 × オンライン診療」と題し、積極的な AI 活用なども含めた独立系産業医としてのパワフルで実践的な取り組みを忌憚なく伺うことができました。また、井山 裕子先生（豊田自動織機）からは、「ゼロからの 4 年間～断らない、諦めない、そして得たもの～」と題し、ゼロからの立ち上げにおけるご苦労とその後の成長の過程を伺いました。「産業医講話が 1 分だったのが 10 分になってうれしい」とのコメントが、地道な努力と成果を象徴しており、特に印象的でした。最後に、山本 誠先生（ヤマハ株式会社）からは、奨励賞受賞講演として『ヤマハグループの分散型事業所における産業保健活動』について報告があり、山本先生が積み上げられてきた実績にあらためて感銘を受けました。

本稿は懇話会から半年ほど経ってから執筆しておりますが、この間にも NotebookLM の「動画解説」機能や Nano Banana の登場など、AI の進化はまさに日進月歩です。講演で得た知識を糧として、AI も含めた新たな局面に果敢に挑む必要性を痛感しているところです。



会場風景



懇親会風景

第 20 回東海産業歯科部会研修会に参加して

古澤歯科 歯科医師／労働衛生コンサルタント 熊谷 法子



2025 年 9 月 28 日 (日) に名古屋市のルブラ王山にて東海産業歯科部会が開催されました。

はじめに、トヨタ自動車株式会社安全健康推進部の産業歯科医である西尾歩未先生より、「トヨタ自動車株式会社における産業歯科保健活動」について報告がありました。36 歳以上の従業員は 4 年に 1 回業務の一環として、午前中に歯科を含めた健診受診、午後に健康に関する座学を受けており、歯科の講義は「全身の健康を保つ」ための口腔保健の重要性を伝えるために保健師同席で開催し、動機付けの向上がみられるとご説明いただきました。フッ化物配合歯磨き剤の含有フッ化物濃度が高濃度であるとう蝕予防効果がより高くなることを利用し、指導内容は正しい知識で商品選択をするという行動に移しやすい項目を選択されており、診療室での保健指導や労働者を対象とする診療所型歯科健診時にも生かせる内容で勉強になりました。また、東海産業歯科部会でただ一人の常勤産業歯科医である先生の産業歯科保健活動や多職種連携の経験に基づくお言葉には多くの気づきがあり、診療が歯科専門職で完結することが多く多職種連携に不慣れなことも多い歯科医師や、産業歯科保健活動に関心を持つ歯科衛生士にとっても

道しるべになります。

続いて、名古屋市の橋本歯科医院理事長である橋本雅範先生より「職域における歯の酸蝕症について」と題し、歯の酸蝕症などの職業性歯科疾患についてご講演頂きました。大学の衛生学講座で職場巡視や歯科特殊健康診断に従事されていた際の貴重な多数の症例写真を、有害業務の内容や従事年数、巡視時の写真と合わせて作業工程の解説とともにご紹介頂きました。現在、歯などに有害な業務に携わる労働者に対して、歯科医師による健康診断を実施し、労働者の人数にかかわらず労働基準監督署長への報告義務があります。酸を取り扱う業務は多岐にわたり、歯科特殊健康診断の対象者には研究者や小規模事業所、特に七宝焼などの伝統工芸従事者も該当すること、判定には経時的観察を必要とするため、健診者は同一またはキャリアブレーションを行うこと、健診時に口腔内写真撮影を行うことが大切とのことでした。また、飲食物などによる酸蝕症との鑑別には問診が重要であり、特に軽度症例では歯がしみることも多いが進行するとしみなくなることをご教示頂き、書籍では目にする機会の少ない軽度症例の経年変化についてもご紹介頂き大変勉強になりました。

また、研修会終了後に講師を囲み会食を行い、意見交換や情報共有をすることができ、充実した研修会となりました。



会場風景

トピックス

三重県の産業保健活動状況

富士電機株式会社 三重工場 健康管理センター 後 藤 義 明



三重県は南北 170km、東西 80km の細長い形をしており、北勢（四日市）、中勢（津）、南勢（伊勢）、伊賀、東紀州（尾鷲）の 5 地域（主要市）に区分されます。

2024 年の人口は 171 万人（都道府県で 22 位）で、山と海の豊富な自然

に恵まれて農業・漁業が盛んであり、多くの観光資源を有することで「美（うま）し国」と言われています。また、北中勢地域は中京工業地帯の一翼であり、全国屈指の工業県です。特に、四日市市には自動販売機のトップメーカーの工場があり、生産・出荷台数日本一であることをご記憶ください。

閑話休題、三重県の産業医の活動状況です。

- ①三重県の医師数（2022 年）
4,395 人（人口 10 万人対 252.3 人、都道府県で 34 位、東海 4 県では最多）
- ②三重県の日本医師会認定産業医数（2025 年が有効期限内の者）
1,047 人（①県内医師の約 1/4 が産業医の有資格者）
- ③三重県の選任産業医数（2024 年 12 月）
1,358 人（名寄せした数。県外在籍者や、②以外の資格で選任されている者を含む）

他県の状況はわかりませんが、三重県は産業医資格を持つ医師の割合が高く、実際に産業医として選任され、活動している医師が多いと考えられます。この状況を支えているのが、三重県で産業医に対する研修や支援を行っている 3 団体です。

1) 三重県医師会

例年、産業医研修会（日医認定産業医研修）を 5 回開催しており、毎回 100 人以上が参加しています。津市の三重県医師会館で開催されていますが、新型コロナ禍以降は郡市医師会にサテライト会場を設置することで、利便性が向上しています。事業所見学（日医認定産業医研修、実地）は年 2 回、認定産業医資格を新規取得するための基礎研修は隔年で開催しています。講師や見学事業所の選定、広報に関しては医師会担当者が尽力しており、質の高い研修が運営されています。

研修以外では、下部組織の桑名医師会における嘱託産業医紹介事業があります。2022 年度に日本医師会モデル事業として実施されたものを継続しており、毎年数件の成約実績があります。近年、産業医のマッチングは全国規模の紹介業者によるものが多くを占める中で、地区内の事業所と医師会員を対象とした地域密着

の活動は注目されます。

2) 三重産業保健総合支援センター

研修事業では例年、産業医向け研修（日医認定産業医研修）を 60 回、産業保健スタッフ向け研修を 30 回開催しており、これは全国の産保センターの中でも相当多いと言われています。産業医向け研修には更新・実地・専門の 3 分野が含まれており、産業保健スタッフ向け研修にはオンラインで受講可能なものもあります。

また相談事業は、各分野の産業保健相談員 47 人を有して対応しています。2024 年度の相談件数は 149 件で、主な相談内容は「化学物質管理・特殊健康診断」「事業所内のメンタルヘルス問題」でした。

3) 三重産業医会

1969 年に設立された産業医学の研究会で、三重県内に所在する事業所（企業・学校・官公庁）を対象としています。2025 年現在 43 事業所が会員であり、そこから選任された理事により運営されています。

主な活動は研修会の企画・広報と運営であり、例年、会員向け研修を 2 回、産業看護職向け研修を 1 回、「メンタルヘルス対策フォーラム」（日医認定産業医研修）を 1 回開催しています。

55 年以上の長期に渡り活動しており、三重県の産業保健において存在感を示しています。一方、会員事業所が漸減していること、研修参加者や運営理事が固定していることが課題と思われます。

最後に、三重県の産業看護職の活動状況です。

三重県には 4 つの看護系大学がありますが、今回調査にご協力いただいた四日市看護医療大学は、2007 年の設立時より産業看護教育を特色とし、産業保健師を輩出しています。2025 年現在、三重県内に 15 人、県外に 2 人が就業しています。

※調査にご協力いただいた三重労働局、三重県医師会および桑名医師会、三重産業保健総合支援センター、三重産業医会、四日市看護医療大学に感謝いたします。

※備忘録

三重県医師会

2025 年、会員数 3,047 人、認定産業医 781 人

嘱託産業医紹介事業

2022 年度 1/3 件、2023 年度 1/1 件、2024 年度 3/3 件、2025 年度 1/1 件

産業保健相談員

産業医学 13 人、労働衛生工学 9 人、産業衛生関係法令 5 人、メンタルヘルス 3 人、カウンセリング 6 人、保健指導 8 人、栄養指導 2 人、運動指導 1 人

リレーエッセイ

仲間と学び合うことで明日への活力を得る

TOPPAN グループ健康保険組合 保健師 増田 彩 希



健康企業推進サポート
シャイニング・ライフ保
健師の水越真代さんから
バトンを受け取りました
TOPPAN グループ健康
保険組合保健師の増田で
す。

今回は、私が産業保健
に携わる中で感じてきた
こと、そして仲間との学びについてお話ししたいと思います。

産業保健の現場で感じたこと

私はもともと臨床で看護師として働いていました。病気の治療に携わる日々の中で、「病気になる前に支えられる存在になりたい」という思いが強くなり、保健師を志しました。産業保健の現場に入り、現在は保健師となり 4 年目になります。個人に対する健康支援を中心に従業員の健康支援を行っています。

従業員の健康を支えることにやりがいを感じる一方で、思うように行動変容につながらなかったり、支援の方向性に迷ったりすることも少なくありません。特に働き始めた頃は、「どこから学べばよいのか」「この判断で良かったのだろうか」と不安を抱え、孤独感に悩まされることもありました。

仲間と学ぶ勉強会

そんな時、外部の勉強会に参加する機会を得ました。経験豊富な先生方や同じ立場の仲間と交流し、悩みを共有できる時間はとても新鮮で、「一人で抱え込む必要はないのだ」と感じることができました。特に対面での交流は、画面越しでは伝わりにくい雰囲気や温度感が自然に伝わり、安心して本音を話せる空気を生み出してくれます。現場での困りごとを口にするだけで「自分も同じことで悩んだよ」と共感してもらえることも多く、それだけで心が軽くなりました。

こうした学びの場での安心感や仲間の存在の大きさを実感し、「同じような若手同士で気軽に集まれる場があったらいいな」と思うようになりました。その思いをきっかけに、数年前から小さな自主勉強会を立ち上げています。特別な団体というよりも、産業保健に携わる若手が肩の力を抜いて集まれる場です。経験豊富な先

輩方にもアドバイザーとして加わっていただき、面談の練習や健康教育の工夫、日頃の悩みや疑問を題材に勉強会を行っています。

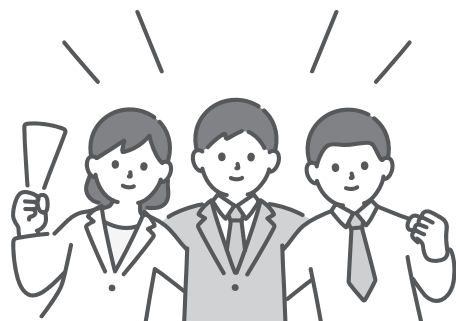
学びの先にある成長と目標

勉強会への参加を通して気づいたのは、知識やスキルを得る以上に「人と学び合うこと」そのものが、自分を前向きにしてくれるということです。仲間の視点や工夫に触れると、自分の実践にも新しい発想を持ち込めるようになります。そして、悩みを共有する時間は安心感となり、次の日からまた頑張ろうという力になります。

産業保健の仕事は日々忙しく、仕事とプライベートを両立しながら自己研鑽の時間を確保するのは簡単ではありません。それでも、こうした小さなつながりの場があることで刺激を受け、また歩みを進めていけるのだと実感しています。孤独に抱え込むのではなく、仲間と支え合うことで前に進むこと、これは産業保健師として働き続ける上で大切にしていきたい姿勢です。

私自身、まだ学びの途中にあります。これからも仲間とともに試行錯誤しながら学び、成長し、会社や従業員に貢献できればと考えています。ちなみに、勉強会の活動はInstagramで紹介していますので、もしご興味があれば『サンテコフレ』で検索していただけると嬉しいです。

最後に、次回のバトンは昨年私が参加した勉強会で一緒させていただいて以来、お世話になっている森田芳江さん（AT グループ健康保険組合 保健師）にお渡しします。よろしくお願いいたします。



教室紹介

藤田医科大学 医学部 衛生学講座の紹介

藤田医科大学医学部衛生学講座・教授 大神 信 孝



藤田医科大学 医学部衛生学講座は、教員 4 名、大学院生 6 名、研究補助員 1 名、客員教員 4 名で構成され、実験研究と疫学研究を融合させたアプローチにより、衛生学分野の研究と教育を推進しています。教育面では、

予防医学および疫学の講義・実習などを担当し、衛生学を基盤として健康増進を指導できる医師の育成を目指しています。大学院生の中には、臨床業務に従事しつつ研究に取り組む方も少なくありません。異なるキャリアを持つ仲間たちと切磋琢磨し合いながら、学際的な視点を取り入れ、新規性の高い研究成果を創出し、活気ある研究室運営に努めています。

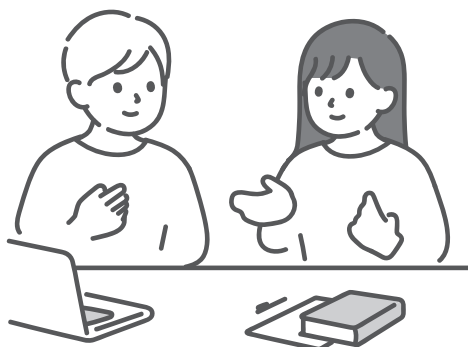
当講座では、環境要因が健康に及ぼす影響の解明に取り組んでいます。疫学研究では、食品摂取と生体内の有害元素濃度の関連、さらに循環器疾患や脂質代謝異常リスクとの関連を調査しています。実験研究では、疫学研究で得られた知見を検証するとともに、予防策の検討を進めています。具体的には、健康リスクと関連する食品由来の有害元素の特定、有害元素の低下作用を

持つ飲料などの包括的評価、さらに妊娠期における有害元素曝露が次世代に及ぼす影響について研究しています。

また、日常生活や産業現場で発生する低周波騒音に関する研究も進めています。低周波騒音は空調機器や交通機関など様々な機器から発生しますが、その健康影響は十分に解明されていません。当講座では、名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学と共同研究を行いつつ、低周波騒音や有害元素に関する多面的な健康影響の解明に取り組んでいます。

日本産業衛生学会東海地方会の活動に積極的に取り組んでおります。昨年度の東海地方会学会では対面形式のみで開催し、多数の先生方にご参加いただき、基礎研究から産業現場での実践報告まで幅広い演題と活発な議論が交わされました。若手研究者による発表や化学物質管理に関するシンポジウムも実施され、産業衛生分野における課題解決に向けた有意義な機会となりました。今後も地域や職場の健康課題に取り組むとともに、学会活動を通じて産業衛生学の発展に貢献してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



会 員 の 声

新任理事の挨拶

浜松医科大学 医学部看護学科 地域看護学講座 助教 影 山 淳



このたび、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました、浜松医科大学の影山 淳と申します。このようなご挨拶の機会をいただき、大変光栄に思います。

私は大学卒業後、看護師としての臨床経験を経て、約 15 年間静岡県内の企業に産業保健師として勤めました。2020 年より大学に移り、主に行政の保健福祉関連施設や企業のご協力を得て行う保健師実習の指導に携わっています。産業保健は、個人と組織の両面から働く人の健康を支える意義深い分野であり、その魅力を学生に伝えるべく、授業や実習を通じて教育に力を注いでおります。研究活動としては、シフトワーカーの個別化睡眠支援方法の開発を目指し、東海地方の企業数社のご協力のもと調査を進めています。「最も過酷な条件で働く人々への支援を考えて

はどうか」とある先生にいただいた言葉が、この研究に取り組む契機となりました。現在も多くの方にご支援をいただきながら、一步一步、研究活動を進めております。職場での調査は、労働者の皆様や産業保健スタッフの声を伺う大変貴重な機会です。現場の空気に触れるたびに初心に立ち返り、交流が研究活動の励みとなっております。時間はかかりますが、粘り強く取り組むことが自分の強みです。今後も教育と研究を通じて、微力ですが社会へ寄与していきたいと考えております。

大学では公衆衛生看護、中でも産業保健分野は少数派です。今後はネットワークの拡充にも努め、この分野の重要性と学術的意義が、社会や看護学において広く認識されるよう活動してまいります。未熟者ではございますが、産業保健の発展に少しでも貢献できるよう、取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

合縁奇縁

ブラザー工業株式会社 人事部安全防災グループ 健康管理センター 産業医 小 池 学



この度、日本産業衛生学会東海地方会理事を拝命いたしましたブラザー工業（株）の小池です。私は藤田医科大学を卒業し、大学での臨床研修を経て形成外科で約 15 年間は毎日のように手術を行っていました。その後

は日本労働安全衛生コンサルタント会の常任理事、山田琢之先生に産業保健の魅力を教えていただき、この世界に飛び込むと同時に産業医科大学で基本講座の洗礼を受け、幸運にもブラザー工業の上原正道先生の下で自身の産業保健の礎を築く機会をいただくことが出来ました。その後の会社や学会等で多くの方々との出会いや有難いめぐりあわせにも心から感謝しています。

出会いに関する忘れられない思い出があります。形成外科では労働災害による外傷などの予防しきれなかった患者さんを多く診ていましたが、産業医活動が始めて間もない頃、工場の職場巡視をしていると、どこかで見たとのある従業員さんから『先生！！』『僕です

よ！覚えてますか？その節はありがとうございました。』と。実はその方、倒れてきた鉄板で顔を骨折し、私が治療に携わった方でした。その方や職場の人は冗談交じりに『先生のおかげで以前よりいい顔になりました。』などと言ってくれました。その職場では再び鉄板が倒れないように対策が行われていました。自身で治療と災害の現場の両方に関わるとても貴重な体験に産業保健との運命をも感じました。災害を被った患者さん自身の辛さはもとより、そこにかかわる医療従事者の思いや大変さも感じる中で産業保健の重要さを痛感しました。そして、あの時の元気に社会復帰している従業員さんや職場の人たちの笑顔は忘れることが出来ません。

今では産業保健で働くことが私の生きる道になっています。新たな役職に恵まれ貴重な機会を得られたことで、これからの出会いもますます楽しみです。まだまだ学ぶことも多い若輩者ですが産業保健のために努力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

新任理事のご挨拶

産業保健エンリッチ株式会社 代表取締役 **豊田 将之**



今年度より、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました豊田将之と申します。この度はこのようなご挨拶の機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。

現在、私は保健師として主に中小企業に対する産業保健支援を行っている会社を営んでおります。私のこれまでの歩みとしては、看護師として総合病院で務める中で「この方（患者）がそもそも病気になるに関わりがあったら良かったのでは？」という予防の大切さを臨床の中で実感し、保健師の道を歩み始めました。保健師となつてからは未だ病気になるっていない方々に対する関わり方の難しさに直面したことから、さらに学びを深めたいと思い、母校であった名古屋大学大学院進学を決めました。修士課程修了をした頃からは中小企業経営者に関わる機会が多くな

てきました。

中小企業における産業保健を知らなかった私は「働く場所によって人の健康度は大きく変わってしまうのではないか」と強い衝撃を受けました。そして、そうした「差」をなくしたい想いで、現会社を立ち上げました。多くの方々に支えられて何とかここまでやってまいりましたが、まだまだ道半ばであり、産業保健を広めていきたい気持ちは今も変わらず強く持っております。そのためには自身が実践家として産業保健における研鑽を積み重ねるとともに、より良い産業保健提供に向けて専門職による連携も深めていかなければならないと感じております。学びと繋がりのお機会をいただいております東海地方会の発展に、少しでも貢献できるよう理事として尽力してまいりたいと思います。

一方でまだまだ若輩者でございますので、今後とも諸先輩方はじめ多くの皆様方からのご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

理学療法士の専門性を『もっと』産業保健分野で活かしてもらうために!!

公益財団法人豊田地域医療センター リハビリテーションセンター 主任 **木村 圭佑**



愛知県豊田市の（公財）豊田地域医療センターに勤めている理学療法士の木村です。昭和 59 年から続く、歴史のある地方会ニュースの「会員の声」に投稿する機会をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。普段

は病院で地域包括ケア病棟を中心にリハビリテーションの業務に従事しながら、兼務で産業保健分野に関わる活動を行っている、いわゆる二足の草鞋を履いている立場です。この分野に関わるきっかけは、介護予防や高齢労働者の就労に関連する事業に従事する中で、神代雅晴氏（産業医科大学・人間工学・名誉教授）の「労働寿命の延伸が健康寿命の延伸を図る」という言葉に出会ったためです。それまで 20 年間三重県で活動していましたが、産業保健分野での活動を強化すべく、2022 年から現職場を拠点にしています。

私の主な活動は院内の衛生委員会です。衛生委員会では、主に看護部やリハビリテーション職向けの健康増進、労働災害予防（腰痛予防など）を目標とした活動

を、産業医や衛生管理者、看護部長らの協力を得て行なっています。昨年度に腰痛等リスクや仕事に一番影響を及ぼしている健康問題の有無について調査し、今年度はその結果をもとに改善活動を計画し実行している段階です。

その他、豊田市療法士会（豊田市内の理学療法士/作業療法士/言語聴覚士の組織）を通して豊田市が実施する健康アドバイザーの一人として関わっています。健康アドバイザーとは、理学療法士や管理栄養士等の専門家が、市の保健師と共に、市内の中小事業場に赴き、職場の健康課題を聞き取り、その解決に向けた活動を行う事業です。

最後になりましたが、理学療法士だけでは働く人々の健康を守ることはできません。多くの産業保健関連職種との連携・協働が必要となります。まだまだ産業保健分野の理学療法士に馴染みがない方もいらっしゃると思いますが、働く人々が健康で安全に働くことができる快適な職場環境の形成、労働生産性の向上を目指すために、これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ロケット打上医療支援の経験

三菱重工業株式会社 HR マネジメント部 名古屋健康管理グループ 保健師 満 生 桃 佳

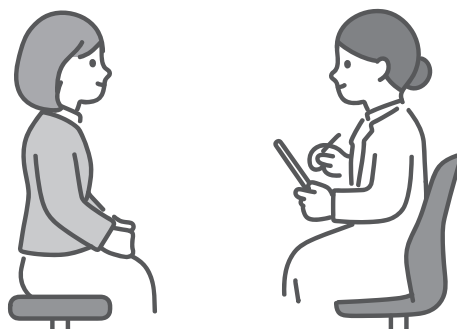


皆様、はじめまして。三菱重工業株式会社 名古屋誘導推進システム製作所で保健師をしています満生桃佳と申します。私は新卒で当社へ入社し、今年で 3 年目となります。名古屋地区には大きく 3 つの事業（民間航空機・防衛装備品・宇宙）、5 つの事業場、6 つの健康管理室が所在しており、健康管理対象者はグループ会社合わせ 9,000 名を超えます。私が働く事業場では、飛昇体（ミサイル）、航空機用エンジン、宇宙ロケット用エンジン・小型衛星などを製造しています。健康診断事後措置・特定保健指導・健康教育・職場巡視・WG 活動などに健康管理グループ全体で協力しながら取り組んでいます。

入社 3 年目となり、名古屋地区に特徴的な産業保健活動をいくつか経験しました。今回は代表してロケット打上げ医療支援についてお話しします。医療支援では、種子島宇宙センターへ 1 週間程度産業医・保健師がペアで出張し、出張者の健康状態の確認や特殊健康診断などを行います。ロケット打上げ前日から当日にかけて、多くの社員は地下にある発射管制塔に長時間待機するため、救急対応も行います。私は 6 月に打ち上げられた H-IIA50 号機ではじめて医療支援を担当しました。本号機は H-IIA としての最終号機というこ

ともあり、緊張感のある環境の中で社員の健康を一番近くでサポートできるという大変貴重な経験になりました。午前 1 時 33 分の真夜中の空にロケットが打ち上がる姿は綺麗で、まるで我が子が巣立つような感慨深い気持ちになりました。社員の達成感や安堵も伝わり、その場に立ち会えたことに大きな感謝の気持ちを抱いています。保健指導の際に「出張が多く生活習慣を整えにくい」という話を時々聞きますが、私も今回 1 週間出張することで、普段と異なる環境での食事や睡眠等の健康管理の大変さを改めて考える機会にもなりました。今後の保健指導の内容に活かしていければと思っています。

今後も経験を重ね、産業保健師として精進して参ります。皆様、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務局から

地方会理事会

2025 年度第 2 回理事会

日時：2025 年 11 月 8 日（土） 10:00～12:00

Zoom による Web 会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 協議事項
 - 1) 2025 年度総会について
 - 2) 2025 年度地方会学会について
 - 3) 第 38 回産業保健スタッフのための研修会
 - 4) 新年度の執行部体制について
 - 5) 今後の地方会運営について
 - 6) 医師会産業医ポイント制度の変更について

- 7) 百年記念事業について
- 8) 次回の理事会日程について
- 9) その他

III. 報告事項

- 1) 2025 年度地方会学会開催報告
- 2) 第 38 回産業保健スタッフのための研修会準備状況
- 3) 第 102 回日本産業衛生学会準備状況
- 4) 本部理事会報告
- 5) 地方会事務局報告
- 6) 地方会活動方針検討委員会
- 7) 学術研究推進委員会
- 8) 編集委員会
- 9) 研修会企画委員会
- 10) 広報委員会
- 11) 表彰制度推薦委員会

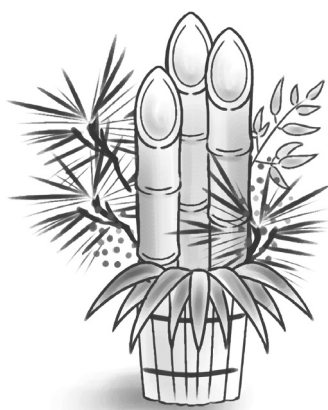
- 12) 部会報告
- 13) 職場ストレス研究会報告
- 14) 各県の活動報告
- 15) その他報告事項
- 16) 関連学会研究会開催情報
- 17) その他

会員状況

2025 年 4 月 18 日～2025 年 7 月 2 日の推移
(2025 年 7 月 2 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
増減	+13(+1)	+6(+1)	+1(0)	+4(0)	+24(+2)
本部正会員	555(1)	248(2)	120(0)	57(0)	980(3)

※()は学生会員を表す



これからの行事予定

第 99 回 日本産業衛生学会

日時：2026 年 5 月 27 日 (水) ～30 日 (土)

会場：グランキューブ大阪

テーマ：すべての働く人への産業保健

ー実践と学術の協働で挑むー

2026 年度 東海地方会産業医部会懇話会

日時：2026 年 4 月 18 日 (土) 14:00～16:50

会場：ウインク愛知 1302 会議室

※オンライン開催：併用予定

特別講演：『裁判事例から学ぶ産業保健』

講師 愛三西尾法律事務所

弁護士 井上 洋一先生

編集後記

編集後記を記載している 2025 年 10 月は、昭和 100 年 10 月だったと話題になっています。大阪関西万博の終了と成功、ノーベル賞の受賞、ガザの停戦合意など、喜ばしいニュースが続いています。2026 年も平和に健康で過ごせたらと思います。

さて、2026 年 5 月には大阪で第 99 回日本産業衛生学会が開催されます。2029 年の学会 100 年に向けてのプロジェクトも企画されるようです。皆様奮ってご参加ください。

山本 誠

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)

副編集委員長：西谷 直子 (名古屋大学)

編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)

伊藤 由起 (名古屋市立大学)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

近藤 祥 (聖隷健康診断センター)

榊原 洋子 (愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀 (中部大学)

豊田 将之 (産業保健エンリッチ)

日笠ちはる (ブラザー)

山本 誠 (ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1
有限会社トータルマップ
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718